

令和 8 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立上黒瀬小学校

学校長名 水戸 美穂子

1 研究主題

進んで考え、深く学ぼうとする児童の育成
～「自らの言葉」で表現する児童の育成～

2 研究主題設定の理由

本校では、算数科を中心に、児童に自信をもたせ、分かる喜びを感じ、自ら学ぶ児童を育成するために、一連の流れをもたせた「上小授業モデル」を基盤として研究を進めてきた。令和 7 年度は、「問いを生むしかけ」を中心に、児童が表現する手立てを模索しながら授業研究を進めた。教職員アンケートにおいては目標値を上回り、「進んで考える学び」・「深く考える学び」のある授業づくりにおいて一定の成果を得た。特に「問題提示の工夫」や「部分を隠すしかけ」は、児童の思考を促すうえで有効であることが分かった。

しかし、研究を進める中で以下のような課題が明らかになった

- ・難易度への対応：学年の進行や単元の難化に伴い、児童の「わかった・できた」という自信が微減する傾向が見られた。
- ・表現の自律性：教師主導の説明から脱却し、児童が「自分から説明したい」「自分の言葉で伝えたい」という意欲にまでは至っていない。
- ・個別の支援：すべての児童がより深く考えるためには、さらに個々の実体やニーズに応じたファシリテーションと、ICT のより効果的な活用が必要である。

これらの課題を解決するため、令和 8 年度は、従来行ってきた「しかけ」を継続しつつ、児童が自分の言葉で理解したことを語り、他者に認められることで自信を深めるプロセスを強化するようにする。これによって、児童は根気強く学び、自分の言葉で説明する喜びを感じるプロセスを経て、自信をつけていくと考える。こうした授業づくりの継続により、進んで考え、深く学ぼうとする児童を育成することを目指して、本主題を設定した。

3 研究仮説

「問いを生むしかけ」を起点とし、「児童理解に立ったファシリテーション」と「ICT を活用した自律的な表現の場」を学習活動に取り入れることで、進んで考え、深く学ぼうとする児童を育成することができるだろう。

4 研究内容

1. 「児童理解に立ったファシリテーション」について

- ・児童への共感的理解と実態把握を進める
- ・「しかけ」のある授業展開で児童の意欲を高め主体性を引き出す
- ・「認め合い」の場の設定し、認め合う集団作りを行う
- ・説明のモデルを提示してより良い説明のイメージを共有する
- ・ICTを活用し、思考の過程を可視化することで個に応じた支援を充実する
- ・目指す「深く学ぶ姿」をもとに、見方・考え方の視点を明確にする
- ・子供同士の意見を構造化して示す
- ・授業におけるつまずきとそれに対する支援を想定する
- ・授業の展開や振り返りの場面において、児童一人一人の習得状況やつまずきを把握する
- ・児童自らが教材、学習方法、学習ペースを選択できる環境を整備する

2. 「ICTを活用した自律的な表現の場」の充実

①児童に自信をもたせて表現の場に向かわせる教師の支援を行う

【表現への意欲を引き出す支援】

②児童の熟考と思考の整理を支えるノートやワークシート、ICTの活用を行う

【ICTやノートで思考を深める】

③既習の学びを生かした表現方法の支援を行う（具体物、口、表、数直線など）

【既習を生かし、表現させる】

④思考の可視化を行い、学習者同士で考えを共有できるようにする

【思考を可視化し共有する】

⑤自律的な振り返りを行い、自分の言葉で記述する

⇒他者（級友や教師、テキストの記述など）との比較や次回への展望を記述する

【比較から自分の言葉でまとめる】

3. 「しかけ」のある学習活動

【「問いを生むしかけ」の例】

しかける場面

- | | |
|--------------|------------------|
| ・「教材」でしかける | ・「リアクション」でしかける |
| ・「問題提示」でしかける | ・「見取り」からしかける |
| ・「板書」でしかける | ・「発表・話し合い」でしかける |
| ・「ノート」でしかける | ・「まとめ・振り返り」でしかける |

しかける方法

- | | |
|--------------|------------|
| ・解けなくする | ・部分を隠す |
| ・場面を曖昧にする | ・基準を隠す・変える |
| ・〇〇づくりゲームにする | ・結果だけ見せる |
| ・分類ゲームにする | ・〇番目を問う |
| ・一瞬だけ見せる | ・式からスタートする |
| ・使えなくする | ・条件をずらす |
| ・情報を多くする | ・目的をずらす |

4. 算数の学びを通してはぐくみたい力⇒深く学ぼうとする姿

【深く学ぼうとする姿の例】

- ア 他者の考えを式や図、言葉などから読み取ろうとする
- イ 演繹的・帰納的・類推的に考えようとする
- ウ 算数の技能を身に付け、表現しようとする
- エ 共通点や相違点に着目して多様な方法で考えようとする
- オ 情報を選んだり集めたり、分類・整理、分析、活用したりしようとする
- カ 目的に合わせて、場面や条件を変えて考えようとする
- キ 構成要素や性質に着目して考えようとする
- ク 既習の概念を拡張させて、見方・考え方を発展させようとする
- ケ 生活中にある算数を見つけたり、算数の美しさに気付いたりする

5 検証計画

検証の視点	実施時期	検証の指標	達成目標
児童が進んで考え、自分の言葉で説明できたと感じることができたか。	6月 12月	児童アンケート	肯定的評価 80%以上
		教師アンケート	評価値3.2以上
算数の見方・考え方を使って、児童は深く考えることができたか。	6月 12月	児童アンケート	肯定的評価 80%以上
		教師アンケート	評価値3.2以上
		授業観察評価	評価値3.2以上